

親学が必要になってきた

校長 柏木 博之

校長室のブラインドカーテンがガサガサやけにうるさい。よくみとセセリチョウがばたばたしている。しかもヤモリの口の中で。10月は、窓を開けておくと校長室によくセセリチョウが入ってくる。入ってきて透明な窓ガラスから外に出られないでいる。そんな虫にヤモリが少しずつ近づいてパクッとくわえる。校長室にはそんな「家守」が3匹いるから安心している。

学校の育苗室でヤモリの卵を見つけた。なぜヤモリだとわかるのか。卵のそばにヤモリがいたからだ。卵のそばにいるヤモリを今まで2回見たことがある。たぶん卵を守っているのだろう。健気だなと思う。それに比べて、最近の若い親は・・・と思わせる話を先日聞いた。授乳のときに携帯電話でメールを打っていたりテレビを見たり、ひどいのは赤ちゃんたった一人で哺乳瓶をタオルで体に巻いてベッドで飲ませている。ある調査では、そういう母親が8割もいたという驚くべき結果がある。このような「ながら授乳」ではなく、赤ちゃんの目を見つめあやしながら授乳するのは、子育ての基本中の基本だと思っていた。「ながら授乳」で育てられて親子の愛着が形成されるか非常に心配になる。さらに、赤ちゃんが産まれたときに、すぐ抱っこするのではなく、助産婦に抱かせておいて、携帯電話でカシャッと写真を撮って、友だちにメールする母親がいるという話も聞いた。また、夫婦の時間が大事と言って、子どもの部屋に外から鍵をかけてしまう夫婦もいるらしい。戦後、欧米から子供を自立させるために一人にさせるという誤った子育てが入ってきたせいだろう。

以上の話をまとめたような世界価値観調査の結果がある。「親が子の犠牲になるのはやむなし」という質問に、「はい」と答えた世界の平均は、72.6%。世界では親が子の犠牲になるのは当然というのが標準なのだ。ところが、日本の親は「はい」が38.5%。調査した73ヶ国中72番目の低さだ。そんな心構えでいるから子どもの名前を次のようにつける親がいる。「輝宙」「一二三」「愛猫」「美貝」「黎亜留」「強運」読めますか？（読み方は一番下の行）。児童相談所の職員は、相談所に来る子供の名前がすぐ読めない子が最近とても多いと知っている。親子の関係が崩れている証だ。子供は親のおもちゃではない。

明治維新の前後、多くの外国人が日本を訪れた。その中の数十名の西洋人が日本人の子育てのすばらしさを書き残している（『逝きし世の面影』渡辺京二著）。脳科学者の澤口俊之氏は、2歳までに昔ながらの子育てをすれば、発達障がい症状の多くが改善されると知っている。伝統的な子育てを見直し、親になるための学習、親としての学習＝親学(おやがく)がとても必要になってきている。

以上の話は、あくまでも一般論です。三島小中学校の子供たちをみると今まで書いたようなことは幸いにしてなかったようで、親子の関係がしっかり築かれています。心配しないでくださいね。

※名前の読み方です。順に「ぴかちゅう」「わるつ」「きてい」「みっしえる」「れある」「らっきー」



花壇では、ポチュラカの花がまだ元気に咲いています。

精一杯がんばった“運動会”

6日(土)、第66回秋季大運動会が盛大に開催されました。「限界を超えて突っ走れ!勝利に向かって!!」の大会スローガンのもと子どもたちは競技に応援合戦に精一杯がんばりました。当日は好天に恵まれ、絶好のコンディションの中、地域の方々と一体となった運動会の全ての競技を無事終了することができました。地区の皆様方には、奉仕作業から緑門作り、当日の運営に至るまで多大なるご協力をいただきありがとうございました。



どんぐり読書週間



10日(水)～12日(金)は、「どんぐり読書週間」でした。各学級での読書活動などを通して読書に親しむ週間です。この活動の一環として、10日(水)に、本校ならではのガジュマルの木の下での“緑陰読書”を実施しました。木の下で穏やかな気持ちで、子どもたちと職員が一緒になった読書会は楽しいものでした。秋の夜長、御家庭でも是非親子で読書に親しんでみてください。

たけんこ学級 “つり体験” 教室

28日(日)に硫黄島地区家庭教育学級「たけんこ学級」にて“つり体験”教室が行われました。当日は少し波があり、みしまⅡにてポイントを移動していただきながらのつりとなりましたが、終わってみれば写真のような大物をはじめ、全員で約30匹あまりも釣ることができました。硫黄島近海の自然の豊かさを改めて実感することでした。



九月踊り

24日(水)、25日(木)に地区の伝統行事「九月踊り」が行われました。今年は中学3年の樋渡初菜さん、中学2年の佐藤詩緒里さん、中学1年の森山泉梨さんの3人が参加しました。地区の伝統として伝わる華麗で優雅な踊りを披露し、大変貴重な体験となりました。



火災想定避難訓練

12日(金)に火災を想定した避難訓練を実施しました。理科室から火災が発生したことを想定して、一次避難所の運動場に避難する訓練です。当日は硫黄島消防団の安永瞳団長に協力をいただき、安全な避難の仕方や消火器を使った消火の仕方等について講話をしていただきました。万が一の際の心構えについて学ぶ貴重な機会となりました。



「おさない・かけない・しゃべらない」に気をつけて避難。